

文 部 省 檢 定 濟

昭和五年十一月十四日 高等女學校音樂科用

高等女學校
音 樂 教 科 書

渡 邊 彌 藏 共 編
山 本 壽

5

東 京 ・ 寶 文 館 ・ 大 阪

歡喜の歌

犬童球溪

(Soprano Solo)

今朝見れば 　み山かすみて東のみ空に
紫の雲は 　棚引き 　萬物ほゝゑむ
歌へ歌へ 　調べたかく
舞へや 　舞へや 　諸共に
又なきこの喜びを。

(Chorus) 　手は舞ひて 　足は踊るよ
めでたき今日の 　この喜び
やよ祝へ 　君も共に 　歌へや
君も共に 　踊れや。

(Alto Solo)

門には日の御旗 　靡くさまも長閑に
木々には群るゝ 　鳥うたふ聲も勇まし
めでたき 　この日を 　共に共に集ひて
調べたかく歌へや。

(Chorus) 　手は舞ひて 　足は踊るよ
めでたきけふの 　この歡び
やよ祝へ 　君も共に 　歌へや
君も共に 　をどれや。

§33. 本邦樂

邦樂の由來

東西何れを問はずその國の音樂は國民性を基礎として發生し、又發達したものである。本邦の音樂も亦斯くの如き徑路を経て來た事は勿論である。

國民性とは思想、感情、風習等その國民獨特の性狀である。東西幾千里の海洋を隔てゝある西洋諸國とその國民性の異なるは勿論のこと、随つて音樂の發達等に甚だしい差違のあるは免れぬことである。

西洋諸國の音樂が、國民凡ての尊崇の中心たる寺院樂に根柢をなし、又此處に争くまれたことは彼の音樂をして益々尊嚴に、益々完全に發達せしめた大原因である。

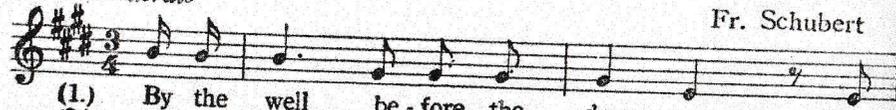
然るに邦樂は宗教による發達は殆んど無く、雅樂は徒らに上層社會に、俗樂は流れて下層社會にのみ瀾漫流布したが故に統一されたる音樂の發達を見る事が出来なかつた。随つて邦樂には種々なる音階律と、種々なる流派がある。今は唯その最も主要なるものに就て説くこととする。

THE LINDEN-TREE

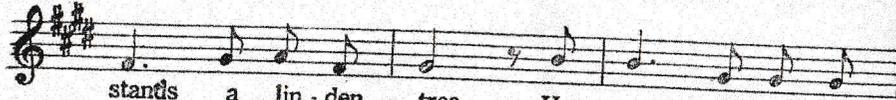
(附 録)

Moderato

Fr. Schubert



(1.) By the well be-fore the door-way There
 (3.) To — day I now must wan-der All
 (5.) The — cru — ei winds were blow-ing So



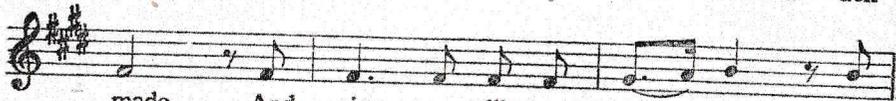
stands a lin-den-tree, How ott be-neath its
 thro' the deepest night; I pass'd it in the
 cold-ly in my face, my hat was borne be-



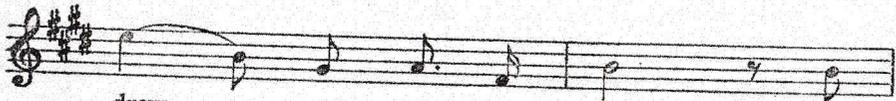
shad-ow Sweet dreams have come to me; (2) Up-
 dark-ness, I screeu'd it from my sight. (4) The
 hind me, I sped with quick-er pace. (6) Now



on its bark when musing Fond words of love I
 branch-es rust-led gent-ly As if they spoke to
 man-y leagues I'm far from The dear old lin-den



made, And joy a-like and sor-row Still
 me: Come here, be-lov'd com-pan-ion, Here
 tree, I — ev-er hear it, mur-mur; "Peace



drew — me to its shade, Still
 peace — shall smile on thee. Here
 thou — wouldst find with me." "Peace



drew — me to — its shade.
 peace — shall smile — on thee.
 thou — wouldst find — with me."

文 部 省 檢 定 済

昭和五年十一月十四日 高等女學校音樂科用

昭和四年九月二十五日印刷
 昭和四年九月二十八日發行
 昭和五年十一月一日訂正再版印刷
 昭和五年十一月四日訂正再版發行



高等女學校音樂教科書

卷 號	定 價
1	金 五 拾 貳 錢
2	金 五 拾 貳 錢
3	金 五 拾 錢
4	金 五 拾 四 錢
5	金 五 拾 五 錢

編 者 渡 邊 彌 藏
 山 本 壽

發 行 者 大 葉 久 吉
東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地

發 行 兼 者 柏 佐 一 郎
大阪市西區阿波堀通四丁目二十番地ノ一

發 兌

大阪市西區阿波堀通四丁目 株式 大阪寶文館
 神戸市元町通五丁目 會社
 小倉市京町一丁目

東京市日本橋區本銀町三 株式 寶 文 館
 會社